

## 出演者紹介



### 春日井市交響楽団

第1ヴァイオリン	原沙登子・水野雅稔・石金良朗
第2ヴァイオリン	島田進司・細江利香・山口文子
ヴィオラ	山北誠司・矢野恭子
チェロ	矢野卓也
コントラバス	村田英康
フルート	宮田義郎・宮田泉
オーボエ	稲垣 徹
クラリネット	伊藤章子・岩崎甲子
ファゴット	泉 博幸
ホルン	後藤哲也・浅野浩代・吉田純子・片山健二
ピアノ	宮田義郎

### ソプラノ 大須賀園枝 (おおすか・そのえ)



名古屋芸術大学卒業。セントラル愛知交響楽団特別演奏会「プルチネッタ」、愛知芸術文化フェスタ 2002 オルフ「カルミナ・ブラーナ」、「03 オーケストラ・フェスタ春日井」などソリストで出演。現在、松本美和子女史に師事。第9回全日本ソリストコンテスト声楽部門優秀賞。第4回「万里の長城杯」国際音楽コンクール声楽部門第3位。

### ピアノ 石山英明 (いしやま・ひであき)



国立ベルリン芸術大学音楽科卒業。毎日新聞社主催学生音楽コンクール東日本大会高校の部入選。ヴィオッティ国際コンクールでディプロマ。留学中にベルリン・ホーエンフェルス交響楽団と度々共演。T.ブランディス氏らの室内楽のレッスン、G.シェベック氏のマスタークラス等に参加。現在、ソロ、室内楽、伴奏で活動中。内藤忠勝、荒憲一、K.ヘルヴィッヒの各氏に師事。

### お 話 都築正道 (つづき・まさみち)

中部大学教授。音楽美学。ワーグナー研究で文学博士。春日井市交響楽団音楽監督。春日井市民第九演奏会音楽監督。かすがい市民文化財団理事。愛環音楽連盟理事長。名古屋ナポリ協会会長。名古屋オペラ・サロン主宰。朝日新聞音楽評担当。主著に「楽劇：音と言葉の美学」(音楽之友社)・「あくびなしの音楽講座：トスカ」(同)。



## 春日井市私立幼稚園協議会教員研修会

感じる力を養いはぐくむための環境と教師の役割

# 音楽を感じよう

— 音楽の面白さと面白い音楽 —



ソプラノ  
ピアノ  
アンサンブル  
お 話  
大須賀園枝  
石山英明  
春日井市交響楽団  
都築正道(中部大学教授)

2003年11月22日(土) 午前10時-11時半

中部大学:三浦幸平メモリアルホール

# 音楽を感じよう

## — 音楽の面白さと面白い音楽 —

**面白い** 音楽はけって、難しくも、退屈でも、堅苦しくありません。とても「面白い」ものです。「面白い」という言葉は柳田国男によれば、文字通り「面(おも)顔(が)白(い)」が語源だそうです。日本語の「面白い」は便利な言葉で、どんなときにも使えます。でも、私たちが「面白い」と思うとき、具体的に「どう面白いか」を知っておくことは必要です。一番良いのは、英語の辞書で「面白い」を引くことです。たくさん「面白い」が出てきますが、内容はそれぞれ全部違います。

**和英辞典の面白さ** 最近出版された「新和英大辞典」(研究社・2003年7月)で、「面白い」を調べてみました。否定的な「面白くない」の「面白い」もふくめて五つに分かれていました。これだけ分析的に並べてみると「面白い」もなかなか「面白い」(interesting)ものですね。

- 1 愉快で楽しい面白い: pleasant(愉快に面白い)・enjoyable(十分に楽しめるほど面白い)・agreeable(首肯できるほど面白い)・delightful(とても嬉しくて面白い)・exciting(興奮するほど面白い)・irresistible(抵抗できないほど魅力的で面白い)。
- 2 滑稽で面白い: funny(おかしくて面白い)・amusing(楽しめて面白い)・comical(滑稽で面白い)・droll(ひょうきんで面白い)・odd(風変わりな面白い)・strange(初めてで面白い)・curious(奇妙で面白い)。
- 3 興味があって、心が引かれて面白い: interesting(興味を覚えるほど面白い)・intriguing(好奇心をそそられるほど面白い)・fascinating(魅力的で面白い)・engrossing(心を奪われるほど面白い)・enthraling(心が奪われるほど面白い)・attractive(心を引かれるほど面白い)・unusual(目新しく面白い)。
- 4 面白くない・好ましくない・望ましくない: unpleasant(不愉快で面白くない)・unsatisfactory(満足できないので面白くない)・undesirable(望ましくなく面白くない)・unfavorable(気に入らないので面白くない)・unwelcome(歓迎できず面白くない)・disappointing(失望して面白くない)・discouraging(やる気が削がれて面白くない)。
- 5 面白くない・不愉快な・不満な: uncomfortable(居ごちが悪く面白くない)・unhappy(機嫌が悪く面白くない)・dissatisfied(不満で面白くない)・discontent(同意できず面白くない)。

**モーツァルトは面白い** みなさんが一番好きな作曲家はヨハンネス・クリストムス・ヴォルフガングス・テオフィルス・モーツァルト(1756-1791)でしょう。彼を「アマデウス」(アマ=愛する・デウス=神が: 神の寵児)ともいいますが本名ではありません。まず、「アイネ・クライネ・ナハト・ミュージク」をお聴き下さい。春日井市交響楽団のメンバーが演奏いたします。

- 1 モーツァルトの弦楽五重奏曲「アイネ・クライネ・ナハト・ミュージク」  
第1ヴァイオリン: 原沙登子・水野雅穂・石金良朗。第2ヴァイオリン: 島田進司・細江利香・山口文子。ヴィオラ: 山北誠司・矢野恭子。チェロ: 矢野卓也。コントラバス: 村田英康。

**楽しくて悲しい歌** 彼の生涯はあまり幸せではありませんでした。その意味でも彼の歌曲「春へのあこがれ」はとても楽しくとても悲しい歌です。では、ご一緒に歌いましょう。

- 2 モーツァルトの歌曲「春へのあこがれ」。  
ソプラノ大須賀園枝・ピアノ石山英明。

**オペラの面白さ** オペラがいま人気です。「オペラの面白さ」は、人間だけが持つ「人間的魅力の面白さ」です。オペラ歌手が身体全体を使って歌うのを聴くと「生きている」ことがとても嬉しく感じられます。技巧を駆使した歌もまた、「声の美しさと人間の能力の素晴らしさ」を知ることができます。論理や倫理では理解できない人間だけが持つ「義理人情の面白さ」を楽しむことができます。モーツァルトのオペラ《フィガロの結婚》(1786)から、若いケルビーノの歌うアリア「恋とはどんなものかしら」からはじめましょう。そして、ジャコモ・ブッチーニ(1858-1924)のオペラ《トスカ》(1900)から「歌に生き、愛に生き」と《蝶々夫人》(1904)から「ある晴れた日に」を聴きましょう。

- 3 ケルビーノのアリア「恋とはどんなものかしら」
- 4 トスカのアリア「歌に生き、愛に生き」
- 5 蝶々夫人のアリア「ある晴れた日に」  
ソプラノ大須賀園枝・ピアノ石山英明。

**家庭音楽の面白さ** また、フランツ・シューベルト(1797-1828)の歌をホルンのアンサンブルで聴きましょう。シューベルトの時代は、「家庭音楽」の時代でした。どの家にもピアノがありました。街をあるくと、どこかで連弾や器楽のアンサンブルの音がしています。モーツァルトも、ベートーヴェンも、シューベルトも、リストも、ショパンも、ブラームスも、ドヴォルザークも、家庭のためにたくさんの音楽を書きました。オーケストラが演奏する交響曲も協奏曲も、ピアノ演奏用に編曲されました。これを「トランスクリプション」(Transcription: 編作)といいます。では、ホルンのアンサンブルで「トランスクリプション」の面白さをお楽しみに下さい。また、家庭音楽の華である「夫と妻」「父と母」によるフルートの二重奏をお聴き下さい。そして、モーツァルトの「木管五重奏曲」で室内楽の楽しさをお聞き下さい。

- 6 ホルン四重奏: 「菩提樹」。
- 7 ホルン四重奏: 「魔弾の射手」・ラデッキー行進曲・ポプリワルツ。Hr. 後藤哲也・浅野浩代・吉田純子・片山健二
- 8 フルート二重奏: メンデルスゾーンの歌曲「『歌の翼に』による幻想曲」 Duo Miyata: フルード: 宮田泉・ピアノ: 宮田義郎。
- 9 モーツァルト「木管五重奏」終楽章: オーボエ: 稲垣徹・クラリネット: 岩崎甲子・ファゴット: 泉博幸・ホルン: 後藤哲也・ピアノ: 宮田義郎。

**ベートーヴェンも面白い** 私たち日本人に一番おなじみの作曲家と言えればルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770-1827)でしょう。「ベートーヴェンの生涯と『交響曲第九番』(1824)の面白さ」についてお話ししましょう。「Freude, schöner Götterfunken」(フロイデ・シェーネル・ゲッテルフンケン)「歓喜は美しい神々の火花である」は名言です。でも、どこが名言なのでしょう。毎年、暮れの「春日井市民第九演奏会」でいつもアンコールに歌われるのが、このなかにし礼さんの作詞による日本語の第九「春日井賛歌」です。ご一緒にどうぞ。

- 10 「春日井賛歌」大須賀園枝・石山英明・オーケストラ全員・会場全員。

では、また、どこかの演奏会で出会えますのを楽しみにしています。